

# 人々をつなぐ多様な立体広場

**1. 過去から学び未来を創る「みんなの広場」として**  
東日本大震災の教訓を後世に伝え、未来を創る場として、展示室はもちろん共用部にも震災メモリアル拠点機能を展開出来るようにすることで、誰もが自然と震災の記憶に触れられる「みんなの広場」としての施設をつくる。

**2. 非日常と日常、プロとアマの双方を内包する空間をつくる**  
非日常としてのホールに向かう高揚感を大切にしつつも、人々が日常的に目的がなくとも訪れたい、プロ・アマを問わず主体的に創造活動に参画できる開かれた場とする。

**3. 表舞台と裏舞台、双方の魅力を伝える**  
完成された公演や展示を鑑賞する楽しさはもちろん、練習風景や舞台美術製作など裏舞台にも創造の魅力が溢れている。裏舞台に関わる機能の一部を市民に開放しやすい配置計画とすることで、ものを作り上げる楽しさを伝える計画とする。



設計を進める上で特に留意すること

## 運営と建築双方の協働で、これからの公共建築のあり方を育てていくプロセス

本計画を青葉山エリア、そして仙台全体のまちづくりのきっかけと位置付け、多様なステークホルダーとの対話を通して、提案をここにしかないものへと進化させる。設計チームは対話を大切に、建築はもちろん運営やプログラムをもとに育てていくことを得意としている。プロセスにおいてワークショップやイベント等、参加しなくなる対話の場を企画。開館後も主体的に運営や利用に関わっていける仲間を増やしていく。

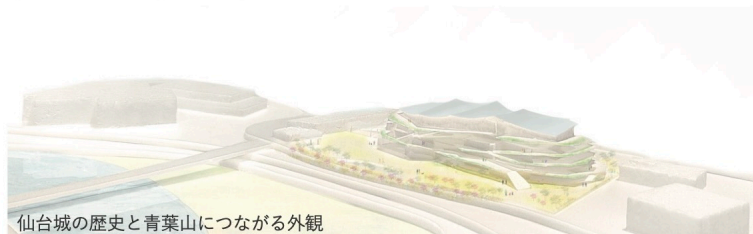


まちの中学生とともにつくるエリアの魅力をもつつけるWS



## シンボルとしての外観と、エリアの回遊性を高める広場としてのランドスケープ

仙台城を彷彿とさせるルーフスケープおよび山の延長と捉えられる床の積層によって、青葉山にふさわしいシンボル性の高い外観をつくとともに、地面レベルに配置される多角形ボリュームによって内外に広場を生み出し、桜の小道や西側の遊歩道を介して、周辺施設や公園、河川敷への回遊性を高めるランドスケープを生み出す。また、駅からアクセスしやすい1階にゲートウェイ機能を設け、被災各地への窓口機能を果たしやすくする



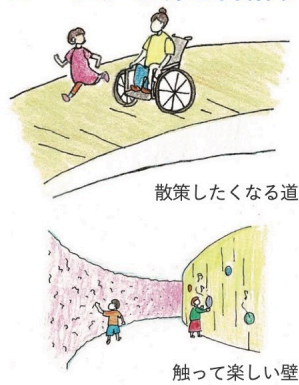
仙台城の歴史と青葉山につながる外観



中心部震災メモリアル拠点の中心であり、各ホールに向かうエントランス空間でもある交流広場。多様な活動が立体的に展開する。

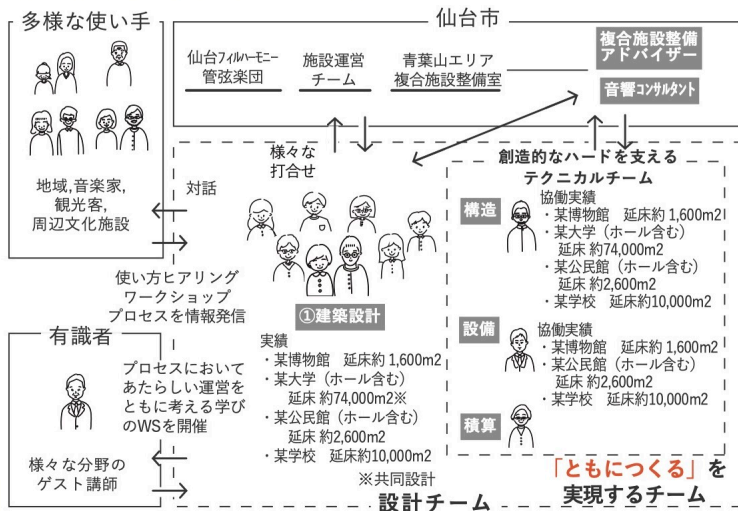
## 誰にとっても居場所があるインクルーシブな場を目指す

設計にあたっては、障害の有無や国籍、家庭環境の違いに関わらず、誰にでも居場所のあるインクルーシブな施設を目指す。賑やかな場だけでなく、クワイエットルームをはじめ、少人数で静かにいられる場を魅力的につくるとともに、視覚、聴覚、触覚等で場を楽しめるように計画。ホールという非日常の場を内包し、誰もが互いの違いを受け止めることのできる寛容な場づくりを目指す。



## 対話を大切に案を育てる設計チームと公共建築の協働実績が多数あるテクニカルチーム

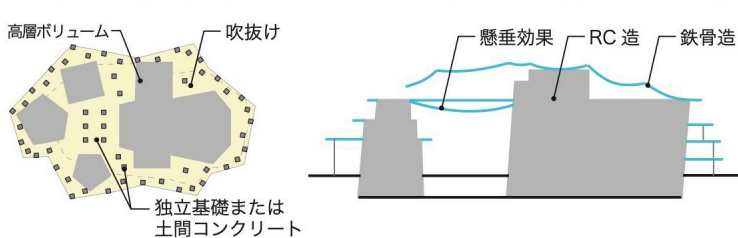
対話を大切にプロセスを組み立てる設計事務所を中心に、構造、環境設備、積算事務所が協働。多数の公共建築をともに経験してきた確実性の高いチーム。複合施設整備アドバイザーおよび音響コンサルタントの皆様と協議しながら、専門性の高さ革新性を併せ持つ建築を生み出していく。



コスト削減に関する提案およびコスト管理について

## 構造計画によるコスト削減

- ・基礎の集約・簡略化
- ・合理的／機能的な構造種別の選択



積層数が多いRCボリュームに諸室を集約配置し、RCボリューム以外の基礎を簡略化。吹抜け部、鉄骨部は基礎を独立基礎とすることで、コストを削減する。

## 物価上昇に対応する、着実なコスト管理

これまでの公共建築の実績を活かし、工程とコストを着実に管理。昨今の物価上昇に対応するため、各段階で概算工事費を算出し、後戻りの無い計画とする。

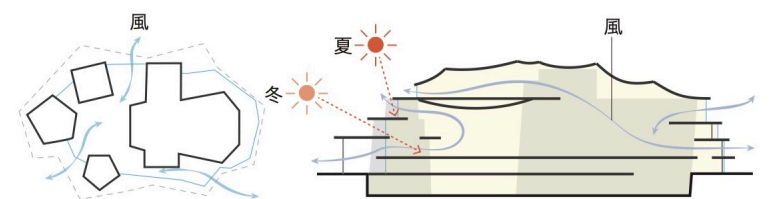
- 1: 初期段階
・施設管理者との協議により要望の優先順位を適切に把握
・目標工事金額から各種工事項目の目標金額を算出
- 2: 規模検討時
・坪単価別(半屋外・屋内・遮音の有無など)ごとに面積を確認し規模を適正化
- 3: 基本設計終了時
・構造躯体の数量算出
・主要部材、床壁天井、カーテンウォールなどの数量算出
- 4: 実施設計終了時
・各種仕上の調整
・カーテンウォールや建具の仕様変更
・計画に支障の無い範囲での各仕様の調整

Table with 4 columns: 目標の設定, 規模の確認, 躯体、主要部材の確認, 設計各種仕様の調整. It details cost management metrics like unit area and unit volume for building and equipment.

## 設備計画によるコスト削減

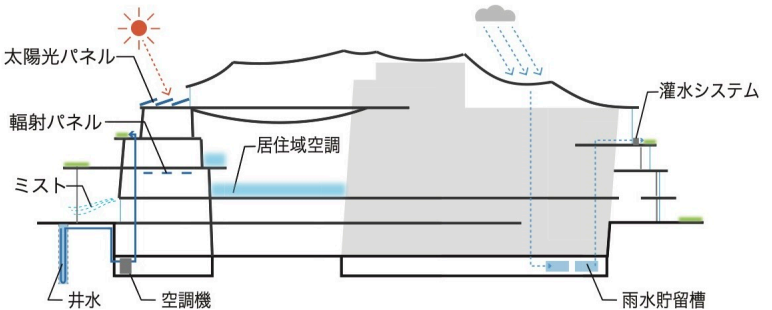
- ・風・光・水のパッシブ環境デザイン

全周から風を取り入れやすい形状を生かし、中間期は積極的に自然換気を行うとともに、吹抜を利用した換気で、パッシブな環境設備を実現。テラスによって大きな立面を分節し、CWの最適化を図るとともに、庇効果により採光を確保しつつ日射制御可能。



- ・エネルギーのベストミックスと環境負荷削減

井水・地中熱・ヒートポンプ・太陽熱・太陽光など、多様な再生可能エネルギー源を活用するとともに、省エネ、省ランニングコストとなる高効率システムとし、エネルギー消費量・温暖化ガス排出量を削減。井水は水温をカスケード利用した後、灌水やミストなどに再利用。



将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

## 更新性の高い文化施設

・機械室、設備シャフトには将来増設用の予備スペースを設ける。また機器配管の更新時には建築工事を伴わず工事が行えるよう配慮を行う。テラスを用いた日常の保守点検スペース、更新時の搬入・搬入ルートの確保の他、駐車場に接するゾーンに機械室を計画するなど、メンテナンスに配慮した計画とする。